

第二回 南区まちづくり懇話会

(平成 25 年 7 月 25 日 (木) 開催)

資料

1. 視察ルート図
2. 視察先概要

2. 視察先概要

◇六殿神社（ろくでんじんじゃ）



六殿神社秋季大祭での流鏝馬



木原神楽

守富荘の鎮守・六殿神社は、治承2年（1178年）平重盛による鎮座と伝えられています。10月9日の大祭には、古式豊かな神楽と流鏝馬（やぶさめ）が奉納されます。

神楽は肥後神楽の一つで木原神楽とも呼ばれ、起源・伝来は不明です。式神楽・三座神楽・新榊の舞・剣弓の舞・二剣の舞ほか7番の十二座舞われます。

現在、木原神楽保存会が結成され、子ども神楽として伝承・保護されています。

また国指定重要文化財の楼門は、入母屋造（いりもやづくり）の茅葺（かやぶ）き、丸柱などは全て朱塗りで、巧みな手法による複雑な組みものや装飾など、室町時代の代表的な建造物です。

◇六殿神社楼門（国指定重要文化財）



六殿神社は、治承2年（1178年）に、平重盛・武蔵の六孫王権現を勧請したと伝えられ、守富荘を治めた木原氏の氏神だと伝えられています。

楼門は天文18年（1549年）に宇土城主名和氏が建てたもので、屋根は入母屋造のかやぶき、その他巧みな手法と複雑な装飾は、室町時代の典型的な建築の様を示しています。明治40年に国指定重要文化財に指定されました。

加藤清正は慶長5年（1600年）9月、宇土城を攻撃したとき、木原を通り楼門が焼けていないことから、由緒ある神社が無事だったことを喜び、「当神社に対する軍勢の乱暴、放火、竹木伐採を禁じ、違犯者は厳罰に処す」旨の制札を慶長5年10月6日境内に建てさせました。今に残るこの制札は、縦36.7cm・横51cm・厚さ0.8cm、上部を山形に切り落とし、かすかに墨色を留めています。

◇塚原古墳群（国指定史跡）



塚原古墳群



古墳公園



塚原古墳群

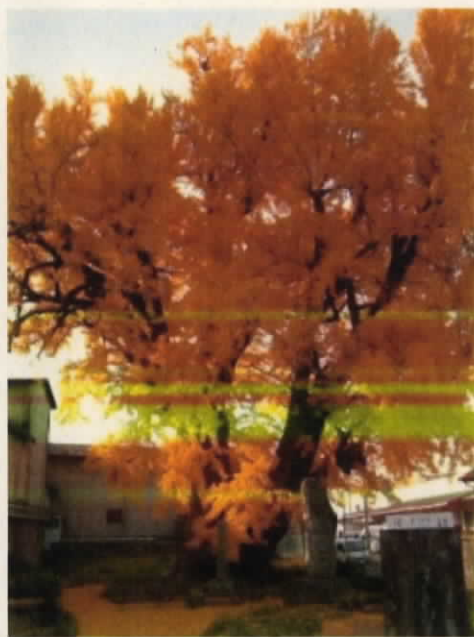
昭和 47 年（1972）、九州縦貫自動車道開通に伴う発掘調査によりペールを脱いだ塚原古墳群は、県民上げての保存運動の結果残されました。保存方法は、遺跡の下をトンネルで通る、という全国で初めてのものです。

現在、野球場が約 5 つも入る広々とした古墳群は、77 基の復元された古墳や、桜や紫陽花、コスモスなど季節の花が咲ききれいな古墳公園に整備されました。公園には、季節を問わず多くの人々が訪れ、人々の憩いの場になっています。

塚原古墳群は、前方後円墳や方形周溝墓、円墳などがあり総数は約 500 と推定されます。併設されている歴史民俗資料館には、出土した土器や資料が展示してあります。

その他公園内には、熊本県民天文台や遊園地などもあります。

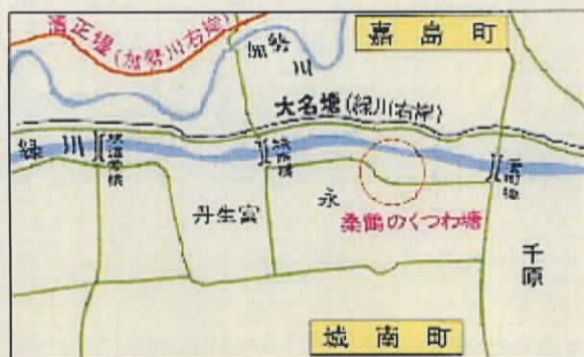
◇下田のイチョウ（国指定天然記念物）



国指定天然記念物「下田のイチョウ」は、県下有数の大イチョウで樹齢は 700 年近いといわれます。場所は、火の国酒造の北側に隣接する旧下田家の庭にあります。

高さ 21 メートル幹まわりが 9 メートルもあり、秋の黄葉はまさに絶景です。

※ 桑鶴の轡塘 (くわつるのくつわども)



轡塘は加藤清正が多用した洪水軽減方法で、河川の合流地点や水あたりの激しい部分に作られた河道内遊水装置です。桑鶴の轡塘はその中でも大規模なものでした。通常、河川は本塘の中を流れていますが、水かさが増した時には遊水池が水を蓄え、周辺への出水を押さえました。また、遊水池内には肥沃な土壌が流れ込むため、平常時には生産力の高い水田として利用されました。現在でも轡塘の遊水池が水田として利用されているところもあります。

◇中無田閘門 (なかむたこうもん)



昭和初期の大改修で加勢川の下流の六間堰が拡張整備され、航路がふさがれるので、川尻の船の行き来は緑川を經由することとなりました。

そこで、水位差のある緑川と加勢川を船がスムーズに航行できるように造られたのが中無田閘門です。2つの木製ゲートによって水量を調整することで、船は緑川と加勢川を安全に行き来することができます。現在も漁をする船などが利用している現役の閘門です。

太平洋と大西洋を連結する閘門式のパナマ運河と同じ役目を果たしているので「天明ミニパナマ運河」の愛称で親しまれています。

◇ J A 熊本市野菜選果施設



- ・ 事業年度：平成17年度
- ・ 事業主体：熊本市農業共同組合
- ・ 受益農家数：351戸
(ナス180戸/トマト25戸/メロン140戸/
ミニトマト6戸)
- ・ 処理能力：①ナス 84t/日
②トマト 6t/日
③メロン 52t/日
- ・ 総事業費：2,110,743千円

輸入農産物に対抗するためには、生産・流通コストの削減及び夢未来くまもとのブランド確立が急務であり、また計画生産、セット販売、リレー販売による競争力と徹底した品質管理による高品質化で競争に耐える農産物の生産体制と出荷体制の整備が必要であるため、西南部・東部地区に分散している天明・飽田・西部・東部の農産物を集約し均質化とコスト削減を図ることを目的に設置されました。

◇ 御船手渡し場跡（国指定史跡「熊本藩川尻米蔵跡」）



加勢川の左岸にある杉島地区は、江戸時代には御船手が置かれて杉島御船手とよばれており、藩船の乗組員や水夫達が多く住む船頭町が存在していました。この杉島と川尻を結ぶ3つの舟渡しのうちのひとつが御船手渡しです。ここはまた、近くにある米蔵を監視する役目も果たしていました。平成24年9月に国史跡に追加指定されました。

